

2022 年第 2 回 IEEE Japan Council 理事会議事録

日 時：2022 年 7 月 15 日(金) 13:30～17:20

場 所：広島ガーデンパレス および オンライン

出席者：橋本 JC Chair、高村 JC Vice Chair、重松 JC Secretary、前原 JC Treasurer、
上原 広島支部 Chair、田岡 広島支部 Vice Chair、山田(洋)広島支部 Secretary、
小川 札幌支部 Secretary/Treasurer、山田(博) 仙台支部 Chair、佐藤(敏) 信越支
部 Chair、中野 東京支部 Chair、小林 東京支部 Vice Chair、Chaki 東京支部 YP
Chair、稲森 東京支部 WIE Chair、片山 名古屋支部 Chair、畑 関西支部 Chair、
松居 関西支部 Vice Chair、上田 四国支部 Chair、庄山 福岡支部 Chair、末松
COC Chair、大野 SAC Chair、桑原 AC Chair、河東 IPC Chair、白川 HC Chair
尾上 Past Chair、滝嶋 Past Secretary 兼 NC Chair、羽渕 Past Treasurer、奥
村 LRSC 委員、山田(剛)YP Coordinator、鈴木 EA Coordinator、野田 WIE
Coordinator、福田 IEEE 2021 Past President、南 MGA ARC Past Chair、西原
R10 Past Director

(順不同)

オブザーバ：Japan Office 百武氏

事務局、幹事会社事務担当

議題：

Robert's Rules of Order について(報告)

- | | |
|----------------------------------|----------|
| 1. 前回理事会議事録の確認 (審議) | 資料 (1) |
| 2. 2023/2024 役員選出について(審議) | 資料 (2) |
| 3. 2022 年中間会計報告および予算修正(予算修正のみ審議) | 資料 (3) |
| 質疑応答 (議題 1～3) | |
| 4. 各支部 2022 年前回理事会以降の活動報告 | 資料 (4) |
| 4-1 札幌支部 | 資料 (4-1) |
| 4-2 仙台支部 | 資料 (4-2) |
| 4-3 信越支部 | 資料 (4-3) |
| 4-4 東京支部 | 資料 (4-4) |
| 質疑応答 (議題 4-1～4-4) | |
| 4-5 名古屋支部 | 資料 (4-5) |
| 4-6 関西支部 | 資料 (4-6) |
| 4-7 四国支部 | 資料 (4-7) |
| 4-8 福岡支部 | 資料 (4-8) |
| 質疑応答 (議題 4-5～4-8) | |

5. 広島支部の最近の活動ご紹介 質疑応答 (議題 5)	資料 (5)
6. 常設委員会 前回理事会以降の活動報告	資料 (6)
6-1 Chapter Operations Committee	資料 (6-1)
6-2 Student Activities Committee	資料 (6-2)
6-3 Awards Committee	資料 (6-3)
6-4 Industry Promotion Committee	資料 (6-4)
質疑応答 (議題 6)	
7. Ad-Hoc 委員会 前回理事会以降の活動報告	資料 (7)
7-1 Long Range Strategy Committee	資料 (7-1)
7-2 History Committee	資料 (7-2)
質疑応答 (議題 7)	
8. Coordinator 前回理事会以降の活動報告	資料 (8)
8-1 Membership Development	資料なし
8-2 Young Professionals	資料 (8-2)
8-3 Life Members	資料 (8-3)
8-4 Educational Activities	資料 (8-4)
8-5 Women in Engineering	資料 (8-5)
質疑応答 (議題 8)	
9. その他	資料 (9)
9-1 事務局業務のシステム化について(審議)	資料 (9-1)
質疑応答・審議 (議題 9-1)	
9-2 協賛国際学会への IEEE ブース設置について(報告)	資料 (9-2)
9-3 SNS の運用開始に向けて(報告)	資料 (9-3)
9-4 IEEE 国内組織の銀行口座運用について(報告)	資料 (9-4)
質疑応答 (議題 9)	
[参考] IEEE Japan Council メール審議記録	
[参考] Region 10 からのメール連絡一覧	
TENCON2020 の余剰金について	資料 別添配布

(質疑は、議題に記載の順で進められたが、議事録においては読みやすさの観点で各報告に
続き対応する質疑応答を記載した)

議事：

0. JC Chair 挨拶

JC Chair から開会の挨拶が述べられた。

Robert's Rules of Order について(報告)

資料

報告：R10 Past Director

Robert's Rules of Order に基づく会議の進行について R10 Past Director から説明があった。IEEE では、Board of Directors を始め各 OU で Robert's Rules of Order を使うことが bylaws に定められている。Japan Council の会議もそれに従うことになる。Region 10 の Web サイトの Resources に過去の Region 10 meeting 資料が掲載されており、その中のスライドにも説明されている。(注)

注：<https://www.ieeer10.org/annual-r10-meetings/>

<https://www.ieeer10.org/wp-content/uploads/2018/03/Akinori-Nishihara-RobertsRule2018.pdf>

https://www.ieeer10.org/wp-content/uploads/2019/03/Deepak-Mathur-RobertsRule2019_Modified_Final.pdf

1. 前回理事会議事録の確認【審議 ⇒ 承認】

資料 (1)

報告：JC Secretary

前回理事会議事録について、異議なく承認された。

2. IEEE Japan Council 2023/2024 年役員候補者の推薦について【審議 ⇒ 承認】 資料 (2)

報告：NC Chair

2023-2024 年の役員選出について、Nominating Committee にて関係する規則、手順に則って候補の選出を進めて来た。各役員の方 1 名ずつを候補者として理事会に推薦したい。Chair 宮永様、Vice Chair 原崎様、Secretary 奥村様、Treasurer 樋口様。各 1 名の推薦となり、結果として選挙にはならなかった。

審議の結果、Voting Member で反対 0 人、棄権 0 人。推薦案の通り承認された。

NC Chair：理事会で承認されたので、Nominating Committee から候補の方々に承認が得られた旨等を連絡し、Nominating Committee としてはミッションを終了する。

3. 2022 年中間会計報告および予算修正【予算のみ審議 ⇒ 承認】

資料 (3)

報告：JC Treasurer

現時点での中間会計報告と、関連活動について予算修正の連絡を受け修正案を作成した。SB 支援費、YP、EA 等の予算変更を受け、支出に反映している。さらに Section 支援費についても 5 件を新規に頂いた。予算の修正と Section 支援費の変更について審議

を頂きたい。

JC Secretary : コロナウイルスが収まってきたこともあり、対面の企画も増えた。そこに人を派遣する等のサポートする趣旨で、増額希望があれば提出をしてもらった。

■ 質疑・審議

MGA ARC Past Chair : コロナウイルスが悪化しない限り今年の予算は使い過ぎになるのではないかと。我々の代だけで過去の蓄積を使い切るのが良いか見直しをした方が良いのではないかと。積立金については、2030年頃に向けてどのような活動にいくら使うか計画をして理事会で承認した方が良いのではないかと。

JC Secretary : 積立金については、2023年以降開催される周年記念イベントに関わるので、提案は承ったがこの審議からは切り離し、修正予算について審議を進めたい。

JC Treasurer : 今年度当初に承認頂いた予算計画に対し、拠出金の入金、円安の影響で収入がさらに増えることも予想され、今回の計画が全体の財政の悪化には繋がらないと考える。

JC Secretary : 以前から繰越金を減らそうとしていたが、コロナウイルスの影響で実現しなかった。今回、活動活発化に向け、妥当な範囲で使って頂こうと考えている。減額する提案はないが、昨年の例のようにそのまま全額執行されるとも思っていない。使うべきところは使って繰越金を減らす努力をすべきというのが **JC Secretary** の考えである。

理事 : 長期的な観点での予算の使い方が分からない。2023年は周年記念にどの程度使うか、コロナウイルス収束傾向のため今回はこの程度とか、3年程かけて減らす等のビジョンがあった方が分かりやすい。結局減らないと思うが、長期的な着地点を示せばよい。状況は変わるので、毎回見直せばよい。

JC Secretary : 周年イベントについては積立金を使う。

JC Chair : 長期的なプランを考えていくのは重要なこと。今回の修正予算については、円安分でほぼカバーできるもの。コロナウイルスを考慮しても予算の執行率は高くないので、予算の立て方を含めて長期的に考えていくべき。今回の予算は認めて頂かないと今後予定されている活動に支障をきたす。適切な利用をするということで認めて頂きたい。

MGA ARC Past Chair : 過去の繰越金を2年程度で使い切ることになるので3年後に理事会に入る方は困らないか。繰越金は7-8年で徐々に減らす計画がよいのではないかと。

JC Secretary : 2020年、2021年と同様の推移だとまた繰越金が減らない。今回の計画通に対し、円安でさらに赤字が小さくなる可能性もあるが、修正案を提出した方々には予算を使って実のある活動をして頂きたいのが **JC Secretary** の考えである。

MGA ARC Past Chair : 計画よりも実態は赤字が小さくなるという前提で **JC** 理事会として承認するのであれば、やむを得ない。

JC Secretary : 将来の予言はできないが、そのように考えている。

審議の結果、Voting Member で反対 0 人、棄権 0 人。修正予算案と Section 支援費の変更案が承認された。

JC Chair : 頂いた意見は、次年度に向けての課題と認識し、まずは内々で検討したい。

4. 各支部 2022 年前回理事会以降の活動報告 資料 (4)
4-1 札幌支部 資料 (4-1)

報告 : 札幌支部 Secretary/Treasurer

11 月に第 2 回理事会をリモートにて開催予定。共催事業として、令和 4 年度電気・情報関係学会北海道支部連合大会を 11/5 から 11/6 まで開催予定。北海学園大学にて開催予定だったが、コロナウイルスの影響でオンライン開催となった。主催事業は IEEE Sapporo Section Best Paper Award (若手研究者年間優秀論文賞) と IEEE Sapporo Section Student Paper Contest (学生員講演発表表彰事業) を実施する。会員数増強の施策は Student Member への奨励事業を実施。新入会の Student Member に対する学会活動支援を行っているが、応募はまだ無い。8 月には講演会を 2 件実施予定で、YP 表彰を 10 月に実施予定。

- 4-2 仙台支部 資料 (4-2)
報告 : 仙台支部 Chair

年次総会を 4/18 に開催した。Fellow 昇格者がいる場合、例年は記念講演を開催しているが、今回は該当者無しのため特別講演会を実施。来年の仙台支部 Intermag を招致した山口氏に経緯を踏まえて講演をいただいた。8/23 から 8/24 まで電機関係連合大会東北支部がオンラインで開催される。例年、Student Session (英語でのプレゼンテーション) を企画しており、その一環として英語プレゼンテーションセミナーを今年も開催予定。WIE は設立 5 周年となり、4/23 に記念イベントをオンラインで開催、約 50 名が参加し、3 部構成で講演会を行った。LMAG 講演会は「リスク・感染症の予測技術」というタイトルで 5/21 に第 2 回講演会を開催。第 3 回は 7 月末に開催予定。今後の予定は、9 月と 11 月に幹事会を開催する。

■ 質疑応答

JC Secretary : Intermag について、JC としてサポートできることは無いか。

仙台支部 Chair : サポートがあると有難いが、確認する。

- 4-3 信越支部 資料 (4-3)
報告 : 信越支部 Chair

信越支部役員会を 5/31 に開催した。支部内では Senior Member 昇格者が 2 名で、メダ

ル授与の件も議論した。今回は電子情報通信学会の信越支部大会と併催（長岡技科大でハイブリッド形式）する。電気学会の東京支部新潟支所大会にて **IEEE Session** を 10 月に開催する。**IEEE Shin-etsu Section Student Branch Session** は、従来電子情報通信学会の信越支部大会と併催していたが、昨年からは単独開催をしている。ポスターセッションではシニアメダルを授与された方の記念講演を予定。信越支部では **MAG-33 Chapter** があり、9月にマグネティックスソサイエティの講演会を対面で予定している。東京信越 **WIE** はカワモト氏が参加し、5周年記念イベントや合同役員会などを実施した。**SB** は 12月にポスターセッションを開催予定。会員増加を促す様々な活動を行っている。

4-4 東京支部

資料（4-4）

報告：東京支部 **Chair**

2022年の理事会は2回実施。講演会として6/14に「宇宙旅行は今にも始まる。日本はどうする？」のタイトルで **LMAG** 拡大イブニングサロンを実施。**SB** 支援として、4/25に農工大のワークショップを実施。5/1に電通大の **SB** でレポート書き方講座を実施した。第3回理事会では **SB** の活性化と組織化について重点的に議論予定。**YP** は **R10 Director Deepak** 氏を招いて“**IEEE Region 10 and You**”という企画を行った。**EA** は 3/12に“**My Personal Journey with IEEE**”を開催。**IEEE 2022 Past President** の **Susan** 氏を招き、大変有意義な講演をいただいた。参加者は 35名。1月に東京支部では 11名の方が **Fellow** に昇格した。**LMAG Award** 受賞セレモニーの様子が **R10 Newsletter April Issue** に掲載。在籍年数バッジを 3月に配布した。

4-5 名古屋支部

資料（4-5）

報告：名古屋支部 **Chair**

役員会拡大理事総会を 3/26に開催。3/26に名古屋支部国際会議研究発表賞を授与した。8/20にシニア昇格メダル授与式を予定。8/29-30に電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会（中部大学）にて学生発表賞を授与予定。9月の北陸支部連合大会でも同様に学生奨励賞を授与する。**QR** コードのマイルストーン贈呈式は 9/26を予定。**IEEE** 福井大学学生支部講演会は、**SB** の活性化を目的に福井大学の先生が講演。福井大学 **SB** の勧誘を行った。学生会員募集活動は **Section** 支援費を活用し、8月の東海支部連合大会で学生会員募集広告を掲載する。東海支部連合大会は **WIE** の企画として数人が講演をするセッションを準備中。**Fellow** と **Senior Member** 勧誘については、6月にリファレンスの必要数がない場合は手伝う旨を記載したメールを送った。2名から反応があり、名古屋支部 **Chair** がノミネーターとなってリファレンスを担当する方を役員から募った。

4-6 関西支部

資料（4-6）

報告：関西支部 **Chair**

5/26 に第 3 回理事会を開催。Executive Nomination Committee を設立。ENC Chair および ENC 委員を審議・承認ののち、Section Chair 候補を選定する。Committee と Affinity Group にてそれぞれの次期 Chair 候補を選定する。これらを 9/21 第 5 回理事会で審議・承認されたのちニュースレターにて候補者を公示し、追加指名が有れば選挙を実施し決定する。Young Professional 賞は 10/7 期限で募集を開始。学生研究奨励賞は優れた英文論文を発表した学生を対象とし、募集を開始。ISSCC2022 国内報告会に関する SSCS 関西 Chapter へ予算を補填支援した。MAW2022 と SYWL ワークショップへの参加支援を決定。既に 2 件の講演会を実施しており、今後のイベントは MDC、SAC、YP の Joint Workshop、9/3 の EA イベント、11/26-27 の関西電気関係学会連合大会を予定。JC Section 支援申請を計画。新 Senior Member へ授与するメダルは申請額 15 万円。

4-7 四国支部

資料 (4-7)

報告：四国支部 Chair

電気・電子情報関係学会の実行委員会を 5 月に実施。他学会も併せて実施しているもので、広告募集の取り纏めを IEEE が行うことになった。サイバーセキュリティシンポジウム道後 2022 が 6/30-7/1 にハイブリッド形式で開催され、後援した。人数は未報告。MD 活動は Senior Member の推薦を引き続き行い、支部が手伝う形式で進めている。Student Activity は英語ブラッシュアップセミナーを例年通り実施する。Nominations は、次の選挙の準備を進めている状況。Professional Activity はイベントの開催を検討中。MAW2022 は 10 月に四国で開催予定。翌日に SYWL+I の形式でイベント実施予定。

4-8 福岡支部

資料 (4-8)

報告：福岡支部 Chair

6/19 に理事会を開催。学生研究奨励賞の実施計画を立てた。連合大会委員会報告の中でも、発表賞の計画を立てている。学生研究奨励賞と発表奨励賞は年初に審査を行い、受賞者を決定、賞金を渡した。学生研究奨励賞については独立して申請者を募り、毎年 10 月の支部理事会で受賞者を審議し、盾などを送っている。発表奨励賞は、支部大会の国際セッションがあり、そこでの英語の発表に対して申請を受け付け、審議して受賞者を決定している。今後の予定は 9/16 に九州支部大会をオンラインで開催。琉球大学の Chair から申請があり、11/24-27 に ICIBMS が奈良文化会館で開催される。

5. 広島支部の最近の活動ご紹介

資料 (5)

報告：広島支部 Chair

本日は現地ではなくオンラインで参加となった。広島支部は、1998 年に設立した。当初から「学生が自分たちでシンポジウムを行う。主体的に運営する」ことを設立の理念としている。これが学生シンポジウムに繋がり、引き続き行っている。私が中国地方に来たのは

2016年。それまでは横須賀で無線の研究をしていた。広島支部の会員数は479名で、東京支部の15分の1、関西支部の4分の1ほどの規模。仙台支部に次ぐ会員数となる。FellowとSenior Memberの比率が少なく、Fellowは2019年以降いない。今年はノミネーションを推し進めていきたい。Senior Memberは4名昇格しており、アップグレードを勧めている。1番大きなイベントは11月開催の学生シンポジウム。学生の支援などにも力を入れており、ジョイントYPを新設した。5/7に承認され、正式な通知を待っている。設立祝賀イベントも検討中。若手研究者、技術者のスキルアップ、キャリアアップを実施していく。SBは山口大学SBと広島SBの2つある。国際会議や国内会議で発表した学生に対し、図書カードを贈呈して支援している。(昨年は国際会議8件、国内会議3件の支援。)ジョイントWIEは2年前に設立し、HISSにてWIE賞を設けている。2020年のMAWは広島で行い、招待講演者7名を招いた。ハイブリッド形式の開催で、会場参加者が56名、オンライン参加者が118名の合計174名で行った。

HISS(Hiroshima Section Student Symposium)は学生が企画・運営する世界初の学生シンポジウム。支部設立の翌年からスタートし、支部事業の柱である。基本的にパネルディスカッション形式で意見交換をし、高校生も発表が可能。研究室や企業の展示、高校生体験講座も用意している。いかに学生が責任を持って取り組むかが重要で、意義と趣旨を理解したうえで学生が動く形式である。7大学の学生が分担して総務、企画、広報等を担当している。3年連続でオンライン開催になっているが、開催形式の最終決定は学生が議論し、考えている。学生は毎年のテーマやスローガンの決定、ホームページの作成、基調講演や招待講演等の企画、表彰の審査と取り纏めも行っている。HISSは参加費無料だが、論文投稿料が大きな収入源となっている。著者、参加者、運営者が快く参加できる会議を目指し、広島支部Vice Chairが開発した会議の運営支援システム「AllConf」を使用している。システムは多くの学会、論文誌でも利用されており、論文3万編、参加者2万名、委員2万名以上を扱い、様々な会議の運営を効率的に行っている。昨年のタイムテーブルは、ショートプレゼンテーションを設けて、1分間のビデオを流した。招待講演はEngineer Spotlightとして全国に配信。基調講演は地元の方に話して頂くことが多く、昨年は宇部市の方に「イノベーション創出のまち」をテーマにお話頂いた。表彰制度は新たにWIE賞を設立。国際会議ISCITにて広島支部のスペシャルセッションを企画し、前年のHISSで研究賞を受賞した論文を世界に発信した。今年のHISSのスローガンは「Engineering for Peace」。

■質疑応答

東京支部 Chair: 継続してこれだけのことを学生が行うのは素晴らしい。主体となる学生は学部生、大学院生、修士課程、博士課程のいずれか。引き継ぐメカニズムも気になる。HISSでの発表は卒業要件に使えるのか。

広島支部 Chair: 修士1年が多いが、修士2年、学部4年も活動し、実行委員に入ってい

る学生もいる。持ち回りの次の開催校の学生が多く入っている。HISSでの発表は、支部としては単位の話をしていないが、大学ごと先生ごとに何かあるかも知れない。

JC Chair : 素晴らしい報告だった。HISSは高校生も招待していることに感銘を受けた。高校生の対象は、地域の高校か。大学を目指す等、連続性が出てきているのか。

広島支部 Chair : 地元の高校生や高専からの参加が毎年数件ある。IEEE Student 会員になっているか、今後追跡したい。

JC Chair : 役員に女性はいないのか。

広島支部 Chair : 女性の会員自体が少なく、理事役員の女性比率も小さいが、ISCIT のオーガナイザーは女性である。

MGAARC Past Chair : HISSは今年もオンライン開催で、全国から出席ができるのか。

広島支部 Chair : 広報は広島支部に限っているが、参加はもちろん可能。

MGAARC Past Chair : eNotice を使って全国に宣伝してはどうか。

広島支部 Chair : オンラインだと地域関係なく出席可能なため、今後考えていきたい。

JC Secretary : どの支部でもイベントに関して eNotice を使って日本の会員へ周知できる。気軽に JC Secretary、事務局へ連絡をして欲しい。

JC Secretary : 広島支部 Vice Chair が開発したシステムは、URL をクリックするだけで会議に入ることが可能なのか。

広島支部 Vice Chair : 私のシステムを使って参加登録をしている。地域性はなく、学生の発表自体も中国地方に限っていない。英語セッションも用意しており、海外の方の参加も不可能ではない。過去には関西や九州からの参加者もいた。今はオンラインなので、気軽にできる。

SAC Chair : HISSは素晴らしい取組み。岡山大学や広島大学など、SBを作る見込みがありそう。ぜひ設立を目指して欲しい。

広島支部 Chair : 検討する。

6. 常設委員会 前回理事会以降の活動報告

資料 (6)

6-1 Chapter Operations Committee

資料 (6-1)

報告 : COC Chair

6/8 に第 1 回 COC ミーティングを開催した。第 2 回は 10/27 に機械振興会館にて開催予定。Chapter 支援費は 6/9 の段階で 28 件申請があった。Award 登録は 6/17 の段階で 37 件。昨年は 79 件であり、半分ほど。年末にかけて申請が増加すると予想している。第 1 回 COC ミーティングはハイブリッド開催で、89 名が参加。Award 登録、Chapter 支援費申請は 2021 年度分から Kintone システムへ移行している。月に 1 度、Chapter 支援費審査を行っているが、2-3 時間ほどかかってしまう。この問題は Section 移行で解決されると予想。Section 移行は 2024 年に移管時期をずらし、準備を進めている。

6-2 Student Activities Committee

資料 (6-2)

報告 : SAC Chair

6/10 に Leadership Training Workshop をオンラインで開催。参加学生 47 名。今年は SB の運営方法について説明した後、Industry Collaboration Session を開催。JC Secretary から 4 社のインターンシップと会社概要を説明した。学生を飽きさせないよう説明の途中でクイズを出題。正解数の多い人に JC と Japan Office からグッズを贈った。オンライン懇親会も行っていたが、半数程度が不参加だった。アンケート結果では、概ね好評だったがインターンシップへの応募は慎重な印象。11/18-19 に沖縄で SBLTW を開催予定。学生活動が下火になっているため、これを機にコロナウイルス前の状態に戻したい。IEEE R10 SYWL Congress 2022 (韓国 済州島) に学生を 2 名派遣する。SAC Chair も参加予定。SYWL Workshop を徳島で開催予定。学生参加者を募集中。今年は実行委員会の会議に参加して欲しい。SSR 選出をお願いしたい。R10 からも報告を求められているので、協力して欲しい。マンガプロットコンテストは、今年から中学生以上の応募も可能となった。表彰される際は IEEE 会員になることをルールとしている。WIE 賞を新たに設立。WIE にまつわるプロットを選びたい。

■ 質疑応答

Past Secretary : 御礼と情報共有。Industry Collaboration Session に参加をした。2 年目なので、社内で準備が盛り上がった。

名古屋支部 Chair : マンガプロットコンテストの表彰対象になれば、高専以上の人は IEEE 会員になるよう依頼する件。高専以上ということは、IEEE 分野の人ばかりなのか。

SAC Chair : 蓋を開けないとわからないが、そのように想定している。

名古屋支部 Chair : 中学、高校、高専以上の方は分野外の方は来ないということか。

SAC Chair : IEEE に入るには University、College 以上でないといけない。IEEE の表彰規定と照らし合わせて依頼をする。

COC Chair : 今の規定だと、高専の 4 年生以上という規定が必要ではないか。高専の 1 年生から 3 年生は高校生の扱いとなる。

SAC Chair : 高校生と同じ年齢であれば、無理に IEEE 会員になることを強いることはない。18 歳未満の未成年が応募する場合は保護者の同意が必要。

6-3 Awards Committee

資料 (6-3)

報告者 : AC Chair

AC では Corporate レベルの受賞を促進、補助するように活動している。国内委員よりも本部委員の情報把握を行っている途中。IEEE の中で本部委員は見える場合と見えない場合があり、情報収集中。2022 年の秋には AC 会合を開催予定。今年の TFA 受賞者は 2 名であった。JC の Web 上の Award 受賞者関連の情報を整理すべくメンテナンスを実施

している。ACの体制見直し検討を進めており、AC Chairの退任後は浅井氏がAC Chairとなる。各委員会に出席している本部委員の日本人をなるべく多く把握したい。

6-4 Industry Promotion Committee

資料 (6-4)

報告 : IPC Chair

6/27に第2回委員会を開催。徳島で開催予定のMAW2022で、SYWLにIndustryをプラスしたSYWL+Iを開催する準備を進めている。「+I」についてはIPCが管轄。7/4にSYWL+Iの打合せをキックオフし、「+I」に関して説明。企業からの参加には過去の実施例イメージがあれば良いと意見があった。JC Secretaryが「企業におけるキャリア開発」という企画を提案し、これを基調講演とすることを検討している。IPCのかかわり方は、ファシリテーターやディスカッションのメンバーとしての参加、企業の様子を話す等が挙げられる。SYWLのメンバーと実現への検討をする。MAWの第2ラウンドについてIPC内で議論した。2023年の信越支部にて9支部を一巡し、第1ラウンドが終了する。第2ラウンド実施の是非についてIPC内で様々な意見が出たが、支部の意見を聞くべきであり、アンケートの実施を考えている。支部の方々には回答をお願いしたい。IPCのホームページをオープンした。MAW一覧を掲載している。IEEE JC IPCグッズ3種を製作予定。講演会は「社会人博士」、「働き方の変化」のテーマを検討中。

7. Ad-Hoc 委員会 前回理事会以降の活動報告

資料 (7)

7-1 Long Range Strategy Committee

資料 (7-1)

報告 : LRSC Chair

第2回会合を6月に開催。昨年行ったFellowアンケートと同じものを2022年Fellow昇格者14名に対して実施。9名から回答を得た。昨年と同様の回答だったが、若干平均年齢が上がっている傾向。「フェロー申請駆け込み寺」という新しい施策を前回の理事会で提案し支持されたため、6月以降のCOC会議やMDC会議にて協力者の勧誘を依頼中。FNC経験者にも依頼。3名から世話人になる承諾を得た。他学会FellowへのIEEE Fellow申請勧奨は、例えば映像情報メディア学会の新Fellowに対し、IEEE Fellow申請の案内を差し上げるもの。同様のことを電子情報通信学会に対しても行う予定。IEEE国内組織の銀行口座運用は、IEEEが任意団体のためOU名義の銀行口座開設が困難な場合があり、成功事例の調査を行っている。IEEEの法人格ができれば問題が解消する可能性がある。昨年のFellow申請者向けのWebinarは100名以上が参加し、次回の開催を希望する声が多く、Fellow申請の締切が3月のため今年も10月と12月に開催する。10月のWebinarまでには「フェロー申請駆け込み寺」を実施したい。

7-2 History Committee

資料 (7-2)

報告 : HC Chair

HCはマイルストーンの発掘および授与の際、Dedication Ceremonyに出ることが仕事。日本からのマイルストーンは40件ある。最新のものはQRコード。40件のうちHC Chairが申請し、認定されたものが7件。あと10件ほどが放置状態になっており、迅速な対応をお願いしたいところ。アドバイスがあれば頂きたい。申請書を書く係を担っているので、何かあれば言って欲しい。

■ 質疑応答

JC Chair：申請が滞っているものはどうすれば加速できるのか。

HC Chair：本部 Committee の Chair に迅速な対応をお願いしているが、応答がない。

Past President：私の方で執行部に問いかける。

MGA ARC Past Chair：2030年に日本の Section 活動が70周年となり、JCの歴史を纏める必要が出てくると思う。JC HCが中心となり、ヒストリーを纏めるのが良いと思う。

HC Chair：学生時代からIEEEに入っているが、組織の歴史を辿り活動全体の把握をすることはできていない。資料も残っておらず難しいが、私の年にしか出来ないことだと思う。力を貸して欲しい。

MGA ARC Past Chair：60周年の際に、過去の資料をベースにして日本 Section 活動の歴史が纏められている。それに70周年を繋げて、JC HCが旗を振ると良い。70周年の委員会もできるので、ヒストリー担当を立てるのも良い。

HC Chair：検討したい。

8. Coordinator 前回理事会以降の活動報告

資料 (8)

8-1 Membership Development

資料なし

報告なし。

8-2 Young Professionals

資料 (8-2)

報告：YP Coordinator

秋のイベントに向けてミーティングを行っている。YPとして5つの支部があり、それぞれの活動状況を紹介する。札幌はテクニカルイベントを多く開催しており、精力的に動いている。仙台は秋にイベントを開催予定。東京は4件イベントを開催。名古屋は報告なくコンタクト中。関西は秋にイベントを開催予定。広島、四国、福岡のジョイントYPの新規立ち上げは、申請書の承認を頂いたがオフィシャルなレターが未着のため予算申請ができない。立ち上げ記念イベントも計画ができない状況。SYWLは、新たな試みとしてYP CoordinatorがCo-Chairとして実行委員長を担う。SACから学生主体で1名Co-Chairを担い、次世代のリーダーシップを醸成していく狙い。バックアップのフォロー、サポートとしてSAC Chairも入る予定。運営委員のメンバーは各Coordinatorに加えて、四国支部から3名。今回「+I」にしたのは、アカデミックを除外する意図では無く、これまで

の SYWL の共通項として **Industry** が内在していた。「+I」を前面に出し、SYWL のプログラムを見直し、今年はトライアルとしたい。評判が良ければ、来年以降も「+I」を継続したい。R10 の SYWL は YP から 2 名参加した。IEEE 8th World Forum on Internet of Things の Young Professional Forum Co-Chair を担当している。

■ 質疑応答

SAC Chair : SYWL+I ワークショップは運営体制について、地方とどのように関わりを持つかなど議論があった。毎回、実行委員長を YP が担当している。SYWL であれば、YP が毎回担うのではなく、特色を出したい。その試みとして、SAC が加わるようになった。SAC Chair としては学生をサポートする立場なので、学生が加わるまでは担当するが、その後は学生の特色を出せれば良い。来年以降の開催は様々な議論があると思う。

MGA ARC Past Chair : S、Y、W、L の Coordinator や Chair が協議をした結果、YP Coordinator が動いていると理解していた。

YP Coordinator : 今年に関しては、その認識で正しい。

JC Secretary : 来年以降は検討するということか。

SAC Chair : 毎回 YP が担うであろうという雰囲気避けたい。

MGA ARC Past Chair : その通りだと思う。

8-3 Life Members

資料 (8-3)

報告 : JC Secretary (LM Coordinator 代理)

東京、関西、名古屋、札幌に LMAG がある。各 LMAG で催すイベントを他の LMAG へ周知し、多くの方が参加することを狙っている。JC 事務局から案内を出したり、主催する LMAG が LMAG Chair 経由で Life Member へ送ったりしている。コロナウイルスの影響でオンライン開催が多くなり、どこからでも参加可能なイベントが増えた。5 月は仙台 LMAG の第 2 回講演会が開催。LMAG Tokyo イブニングサロンでは LM Coordinator が講師となり、98 名が参加。関西支部 LMAG では第 19 回現地講演会/117 回技術講演会が開催。東京支部講演会は 6 月に開催した。LMAG Nagoya の技術情報講演・懇談会は 7/16 に開催予定。他の Affinity Group との協力として、山形県立酒田東高等学校の Super-Science High school(SSH) のイベント講演者として JAXA の津田氏を紹介。EA Coordinator の働きで、Engineer Spotlight も同時に開催した。SYWL の議論は、LM Coordinator も積極的に参加している。R10 SYWL Congress が 8/11-14 に済州島で開催。LMAG track が設けられ、3 名が参加する。昨年、札幌 LMAG が設立し MAW で披露された。今回の SYWL (徳島) でも Life Member が集まることを模索中。

8-4 Educational Activities

資料 (8-4)

報告 : EA Coordinator

10/7-8 に MAW と SYWL が行われる。EA が関わる理由として、四国支部から人数を集めるために高専にリーチしたい旨を聞いていた。MAW の講演で四国支部 EA Chair に調整頂き、協賛もしくは後援として EA が関わることになった。JC EA の支援として、高専の方を MAW と SYWL へ招待することを検討し、旅費や低年齢層向けのグッズ作成などの施策を考え、予算を申請した。JC EA Coordinator や EA Group の中からもブースを出す想定。2022 年の活動報告は第 25 回以降の Engineer Spotlight を開催した。いくつかの Committee とコラボレーションして、JC、支部、Chapter と一緒に盛り上げたい。このうち、JC SAC とのコラボレーションとして、学生に学会活動の話を行った。Japan Office から Super Science High school 指定の高校宛に発信したメールに対し、宇宙関係の講演者を探している旨の連絡が来た。事務局を通して LM Coordinator に講演者の紹介依頼をし、実現した。支部 EA Chair 間で情報共有を行った。

■ 質疑応答

MGAARC Past Chair : JC EA の活動の 1 つである Engineer Spotlight は、 scope が広く、JC EA 活動として括るのは無理がある。Engineer Spotlight を JC 直下の活動に位置付け、幅広く活動すると良い。幅広く活動する中で、EA の一部だとやり辛い面もあり、東京支部 SIGHT のように Special Interest Group と位置付け、JC でも活動すれば良い。回を重ねて Engineer Spotlight という言葉が体を表わさず、ビジョンが出て来ないように感じる。体制の変更と同時に、端的な名前に変更するよう検討してはどうか。

JC Secretary : コメントがあったことを議事録に残す。

8-5 Women in Engineering

資料 (8-5)

報告 : WIE Coordinator

3 月下旬に WIE Chair が集まり、今年度の活動や様々な活動の状況を共有した。来年度以降の WIE 20XX シリーズについては、WIE Chair の会議でその年の主催を決め、実行委員会を組織する。詳細は主催支部 WIE 実行委員会に任せるが、各支部 WIE から実行委員を出し、全 WIE で行うようにする。主催の支部は単独ではなく、複数の支部 WIE が連携して行うことになった。グローバルな WIE 25 周年を祝うイベントについては、日本国内 WIE が関わっているわけでは無いので、特に企画は必要ではないが、各イベントの中で 25 周年である旨を案内し、祝う程度にしたい。MIRU2022 でのランチ会は主催者と連絡が取れず、また感染症対策の観点から、実施しなかった。SYWL ワークショップの開催準備も協力して行っている。WIE2022 は全支部が協力して行うが、今年は東京信越 WIE が主催。ハイブリッド開催を予定している。マンガプロットコンテストへの支援は、広報の協力と WIE 賞の授与を予定。

9. その他

資料 (9)

9-1 事務局業務のシステム化について(審議)

資料 (9-1)

報告 : JC Secretary

IEEE 事務局の労務関係の業務について、その改善を検討して提案するので、審議を頂きたい。実務担当の Secretary Assistant から説明する。

報告 : Secretary Assistant

事務局の労務関係業務の一部のシステム化を検討している。情報セキュリティ面での懸念をきっかけとして検討を開始したが、併せて業務効率化の点も含めてクラウドを活用したシステム化案を具体化した。既に IEEE に導入されているシステムを有効活用し、ワークフローをクラウド上に移行したい。一定の効果が期待でき、事務局員の方の作業負荷も低減。年内に稼働可能。運用費について、増減はない。

■ 質疑応答・審議 (議題 9-1)

MGA ARC Past Chair : 「運用費増減なし」の意味は何か。

Secretary Assistant : ランニングコストが増えないということ。

MGA ARC Past Chair : 一度構築すればあとは追加なしで使えるということか。

Secretary Assistant : その通り。

JC Secretary : 本件を進め、事務局の負荷を少しでも減らしたい。

審議の結果、Voting Member で反対 0 人、棄権 0 人となり、承認された。

9-2 協賛国際学会への IEEE ブース設置について(報告)

資料 (9-2)

報告 : JC Secretary

以前より協賛する国際学会等から要請があった場合、IEEE ブースを設け活動紹介や、Higher Grade 会員の申請の勧誘を行ってきた。今回、協賛学会に積極的にブース設置を依頼して Higher Grade メンバーの増加を図ることにした。対象の国際学会は 5 つあり、既に 2 つが終わっている。提供できる配布物は、Senior Member の申請方法のガイド、Fellow のリスト、申請勧誘、JC EA 活動紹介、マンガプロジェクトなど。Japan Office で準備頂ける資料も含め提供する。JC、Japan Office の了解の上で MD Coordinator、COC Chair の了解を得て JC COC 会合、MDC 会合でも本内容を報告し協力要請をしている。ブースを設けないまでも配布物を置く要望があれば JC 事務局や Japan Office から送付が可能なので、要望があれば連絡して欲しい。本件はトライアルとして、各組織を越えて協力できると考えている。結果は LRSC の場で報告し来期につなげたい。

■ 質疑応答

MGA ARC Past Chair : 今年はトライアルで来年から本格的に実施する可能性があると思うがその場合、どの会議に出し、誰が行き、費用は、等が問題になる。ブース設置計画書

を作って JC 理事会に諮って承認を取るプロセスが必要ではないか。費用にもよるが、来年からは JC Secretary の判断で進めるのは、他との関連もありよくないのではないか。

JC Secretary : 費用低減の意味でも、その国際会議が行われる各支部での MD と Chapter が縦糸と横糸で協力頂きたい。そうでないと、JC や Japan Office から人が行くことで、出張費もかさむことになる。今回、地方でも実施するが、そこで各支部の MDC や Chapter からどれくらい協力を得られるか。得られないとすると何が課題なのかを調べていく。東京支部管轄下の千葉での開催に関しては、東京支部の MDC から人を出すのは難しいが、記念バッジ等の資料提供の要望があり、持参した。また Senior Member に関しては、現地で 5 名申請を希望したいという話もあった。

9-3 SNS の運用開始に向けて(報告)

資料 (9-3)

報告 : JC Secretary

IEEE President の SNS に係る Platform が構築され、JC Chair からも SNS 活用の要望があった。今回 SNS の運用開始に向けて、図書館業務等の受託をしており SNS にも関わっている企業の協力を得て初期設定、イニシャライズをほぼ固めた。決定した事項として、対象者・目的は、当面会員・非会員を問わないが、学生(特に低学年)、女性をターゲットとする。使用するサービスは、Instagram、Twitter。留学生に配慮し、アカウントは 1 つで日英併記する。効果確認のためアクセスの解析ができるようにする。炎上の懸念についてはソーシャルメディアガイドラインを作成し、運用対象者を教育する。SNS に詳しい人として Student Branch、その活性化も含め学生に参加して協力頂きたい。発信者名義は、炎上を防ぐ意味でも個人名とせず組織名、例えば SNS 運用チームとしたい。当面の体制は、例えば JC SAC の Past Chair や YP に入って頂くことを考えており、担当者として学生をアサインすることを考えている。予算は、有料アカウントを使うことになる場合に発生する。情報処理学会でも Facebook、Twitter の運用をしているので、我々の初期化情報を持って運営について打合せしたい。

■ 質疑応答

JC Secretary : SNS に関して協力をしてもらっている企業からは、運用上のポリシーを Web 上に出すべきと提案頂いている。

MGAARC Past Chair : SNS は本当に必要なのか。必要という人が多ければ実行して結構。運用体制、管理体制については、JC 理事会で承認を得ないと、責任の所在が不明確になる懸念がある。

JC Secretary : 今分かる限りの方策を実施し、他学会の運用状況も参考になるので、その情報も入れて最終的には皆様に諮りたい。

MGAARC Past Chair : 了解。

EA Coordinator : SNS の効果に関し、Engineer Spotlight を実施する際には、各自の

Facebook や Twitter で広報をしている。どこで知ったかアンケートを取ると、機械振興会館にあるチラシや発信を見ているケースもある。多人数に拡散できれば広く知られるきっかけとなる。懸念事項としては、学生に運営をして頂く場合、様々なルールを守りつつ、eNotice のように発信依頼によって発信するのか、その時に 140 文字以内 (Twitter) での文面作成やポスターのアレンジまで学生がすると、苦労ばかりで SNS の技術が上がるのか心配。「中の人」をやる学生のメリットについて懸念する。

JC Secretary : そのような意見は貴重なので今後もコメントを頂きたい。

9-4 IEEE 国内組織の銀行口座運用について(報告)

資料 (9-4)

報告 : 事務局

最近、IEEE の主に Chapter の各組織から、法人格を持たない任意団体であるため日本国内での銀行口座の開設が大変難しいとの相談を受けている。Chapter が主催する国際会議等の口座の開設が難しく、国際会議に関しては海外送金が難しいとのこと。現状の IEEE でのルールとどうすれば銀行が対応できるのかの情報を纏めた資料を作成中。LRSC、JC COC の会議でも報告し、より有用な情報を事務局から提供して行きたい。ぜひ支部の皆様や Chapter の皆様からも事例の報告をお願いしたい。特に有用なのは成功の事例なので、好事例についてはぜひ報告をお願いしたい。

JC Secretary : 困るケースが増えているので、成功事例をぜひ情報提供頂きたい。

[参考] IEEE Japan Council メール審議記録

報告 : JC Secretary

学会等の協賛・後援について 4 件あり、承認を得て進めている。

[参考] Region 10 からのメール連絡一覧

報告 : JC Secretary

関係者に随時、転送をしている。

・TENCON2020 の余剰金について

資料 別添配布

報告 : Past Chair

TENCON の件については支部の皆様に迷惑を掛けた。5 月に 3 つの財団への報告が完了し、現在、会計士の監査と Region への報告を行う段階。余剰金の 30%は、Region 10 に納め、残りの 70%を 9 支部に均等に割って剰余金として送金予定 (9 月)。各支部の Treasurer の方にコンタクト予定。

以上